

水源禪師法話集 100

(2018 年 7 月 22 日 カナダ合宿三日目)

2019 年 3 月 2 日

一乗禪の会



印幻禪師と水源禪師

目次

水源禪師法話

規制, 規制の無明の中に生きている私達だが、人の為に尽くせば	3
大徳・比丘に布施をする事によって幸運がやって来る	4
本当の智慧がないが故にサンカーラが次々と、国も崩壊する	5
犬の去勢、DDT、ダイオキシン、原発と私達は無明の中で生いる	6
命をかけて戦争を止めたお釈迦様	7
「観自在菩薩行深」無明、サンカーラを深く、深く観よ	8
カイラス山で最高のおもてなしを受けた水源禪師	8
世界中の宗教で大切にされている牛	11
凄い修行をした聖者は奇跡をいっぱい起こす	13
無明ゆえに、愛によって『取』が生じる	15
生命体は無明から発生し、生、老、病、死、苦となる	16
四門出遊	17
私達は無明の愛、お釈迦様は本当の愛	19
光明でやれば仏になる、無明なデバダッタは最後にお釈迦様に帰依	20
メッカではイスラム教徒がお釈迦様の足跡の周りを周っている	21
お釈迦様の容姿は？	21
生死を超える瞑想法	24
仏罰の恐ろしさを分かっている	25
国民を騙す権力者や政治家達、隠し通す事はできない	26
日本のお寺は葬式仏教、身体を張って心の事を説かねば	27
一般の方が仏国日本を守っている	28
若いお坊さんに海外の仏国を見て回らせる韓国の仏教界、日本では？	29
お釈迦様の本当の手法が伝わらない現実	31
素晴らしい御経「仏説・般若心経」	33
法随観を修めた者だけが死の引導を渡す事が出来る	33

水源禪師法話

規制規制の無明の中で生きている私達だが、人の為に尽くせば、、、

【水源師】

昨日はどこまで話したのかな？

【参加者】

ちょっと逸れましたけれど、通度寺の文珠様の指を持って行ってくれと言って、その話が。

【水源師】

どこから話が逸れてしまったのか？

【参加者】

中夜。この辺からですね。

【水源師】

もう一回おさらいすれば、無明ね。この無明。さっきお話した様に、小鳥さんでも一生懸命卵を温めて、必死になって生命をかえそうとするのに、今私たちは、最高の智慧を持った人間界である生物であるけれども、こういう非常に恵まれた水を運ぶとか、山に行って山菜を採って暮らすという事もなく、便利な社会で赤ちゃんを虐め殺してみるとか、話を元に戻せば規則、規則で、暑期中、子供を歩かせて殺してしまうという、これが、無明がなす仕業ですね。

だから、こういう風な考え、これから色んなサンカーラが発生し、次から次へと心の作用がね。それでずーっと作用が、無明のサンカーラが発生して来る事によって、また意識のサンカーラが発生してきますと。

受想行識の意識、こういう風な関係で起きてきますと。そういう事においてこの作用が、心と物質界がこういう風に組み合わせさっていますと、まだ心の中ですね。それでこの名・色によって、どこに生まれるかが決定してくるわけです。

無明というその中で、宇宙の構造がどうなっているか分からない、それから科学的な事も全然分からない、でもそういう無明の中でも一生懸命人に尽くして良い事をする。

大徳・比丘に布施をする事によって幸運がやって来る

そういう良い事をしていた、あるおばあちゃんは、天界に生まれまして、六処の最高に好い時空です。そのあるおばあちゃんが、カシャパ尊者に、分けるものも何も無いという事で、何もあなたに捧げるもの、お布施するものが一つも無いと。カシャパ尊者が、じゃあ水でも頂戴と言ったわけね、茶碗も無いと。あるのはこの瓦の平たい欠片しか無いですと。じゃあその欠片にちょっと水を注いで私に恵んで下さいと。そう言ったわけです。

何故かと言えば、このカシャパ尊者は大金持ちの息子さんだったらしい、その昔。でも大金持ちであっても、若い時から本当に求道を求めて。出来ればお釈迦様の所に行って修業したいと、そういう話を聞いた事があります。南伝の方では。

それで貧しい所ばかりにお布施を受けに行くわけですね。そうしてお布施を受けたら、その家が凄く豊かになるわけです。それでお釈迦様に言われました。そんな貧しい所ばかり行かないで、金持ちの所にも行きなさいと。そういう風に差別をしてはいけませんと。もしある町に行ったら、その街角から一から最後まで全部に恵みを与えなさいと、お釈迦様が言ったのです。

という風に凄い功德だから、そういう方が来て、お布施を受けた場合にはその家に非常に幸運がやってくるわけです。

そういう事でお布施第一と言うのは、お布施すれば増々苦が無くなって良い事が発生するわけです。それでお釈迦様が、ピンダパータ、乞食してお布施してもらって食事を貰いに行かすわけです。

そうしたら皆、その町が豊かになって行くわけです。その証拠にそういうお布施も何も無いと言うアフガニスタンの町に行けば、もう町は崩壊して、本当にこれが、人間が住むような社会かという風な事を、滅法の社会を見てきました。そういう風に誰にお布施するか分からないけれども、そういう立派な比丘がいないところには、やっぱり不幸がやってきますね。

中国でも儒教は徳をととても大切にして、徳を持て、徳を持てと、人に尽くす事をしなさいと。その最高の徳を尽くすのが大徳と言います。大徳、大徳寺の大徳。大徳と言うのは比丘の事なのです。

比丘というのは、一生懸命修行して、カシャパ（迦葉）尊者みたいに大金持ちであるのも全部捨てて、お釈迦様もそうだけれど一般の人を心から助けたいという、苦を取る為に、そういう行をしているわけです。

本当の智慧がないが故にサンカーラが次々と、国も崩壊する

ところが、そういう修行もしないで、お布施お布施ばかり受けて、キンキラギンのお寺とかそういう風に作った場合には、本当にお釈迦様、天界のこの宇宙の法則を全く恐れないという、これもまた無明ですね。大変な無明です。

こういう事をすれば国が潰れてしまいます。せつかく仏法という凄い教えが有るのに、アフガニスタン（世界に誇るクシャン大帝国）みたいに法が無くなって、その後の国は惨憺たるものです。民衆同士が殺し合いやって、他の国から攻められたと。

全部自分たちではなく、他の方の理由を見つけて、「自分たちは被害者だ」と今度は言い始めます。そういう風にご先祖様の立派な遺跡を全部壊していますが、世界中で今遺産を大事にしましょう、世界遺産を大事にしましょうと地球規模で人類の文化を守っています。イスラム他の全イスラムでも、そういう事をしてはいけませんと言う。猛反対しながら、やったお陰でその後、バーミヤンの大仏を破壊した後に突然に、今度タリバンとかそういう最悪の魔風が吹き始めて、国民を殺し始めましたからね。

本当にそうなのです。それが、ああ、そういうものは迷信だと言うけれども、実際そうなっています。だからこれを無明と言うわけです。こういう無明の行いが大きい所でやれば明快に分かります。個人的には無明って何だろう？そんなわけの分からないパンニャのない。パンニャのない、マガと言います、マガ。

マガと言うのはパンニャ（般若）の究極の叡智が無いが故に、そういうサンカーラ（行）で次から次と、今度は物を観る目もそうなってくると。それでも自分たちだけが良ければいいと。先祖もお父さんお母さんも関係ないという事になったわけでしょう？

国としての、事例を挙げれば悪いのですけれども。ほとんどの現代のイスラムは、私もちょうど中国のイスラムの方へ行ってみました。そうすればもう恨み、妬み、辛みで中国の北京の方は大金持ち、私達は全然お金が落ちてこない。

そういう風な言い方をしていました、チベットの方も。インドに逃げた人たちは私たちの財産が取られる、中国本土が来て、チベットの山奥の石油とか金銀を盗んで行くという話になるわけです。

ところが、その石油というのは、カザフスタンのような巨大な国でも莫大な石油とか、天然ガスを輸出して、そのイスラムの国はどんどん豊かになっています。ところがチベットは山奥で何も無いのに、そういう風な事をまともに聞いて、本当に思うわけですね。

という事は、本当の世界的な知識が無いがゆえに無明が発生します、政治的

にも。経済的な意味もほとんど国民が分からないから、政治家が何をしているかも分からないし、これも無明。だから民主主義というのは、全ての人が正しく正しい知識を持つ事によって、本当の民主主義が出来ますけれども、そういうものを否定して只、あなたが決めなさいと、何の知識もなく、是こそ無明其の物です。

犬の去勢、DDT、ダイオキシン、原発と私達は無明の中で生きている

私の大好きなわんこちゃんが、信じ込んでしまった民主主義によって去勢されて挙句の果ておかしくなってしまうて、死にました。まあ小さい民主主義で、私がない間にこっそりとやられてしまって、まあ罪も無い子犬ちゃん達が、もう苦を受けているわけですね。

皆で去勢をやるからと、でも結果的には、おかしくなっているわけ。わんこちゃんが。去勢をしない、わんこちゃんは、ちょっと狂暴だけれど正常に育っているわけ、私の眼から見たらね。だから医学的に人間の体も、日本では今大変問題になっている。知らないうちに去勢されてしまったと。それが将来どういう事になるかも分からないのに、ただ一時的な考えでそうなっています。

またDDTと、私が小さい時、ああもうノミが体にくっつく、とてもかゆいのが綺麗に取れてなんと素晴らしい薬だろうと思えば、これは大変な猛毒の薬で、大変な病気を起こすと。その当時はもうアメリカ兵が幼稚園に来て、DDTをプアーッとかけられて「ウー！」と。ああそうかノミが取れて気持ちいいなあって。それが私たちです。

【参加者】

大変だったのですね。

【水源師】

そうそう痛い、痛い、それをやったらスッキリなくなるから、こんな素晴らしい薬は無いと思っていたけれども、もう野生の動物が全部死に始めて大変な事になって、特にダイオキシンという大問題が日本で発生したけれども、あれやったら田んぼの虫が全部消えてなんと素晴らしいと思えば、猛毒を私たちは食べていたという事が後で分かる、という風に、一から十までよくよく見れば、皆私たちはもう無明に次ぐ無明に生きているような感じですね。

特に原発は非常に恐ろしいけれど、それを使って電気を起こしてなんと凄いの叡智だろうと思ったら、逆に今度はまあその処理が、津波が来て天災が今度人災だか天災だか分からないように、日本国中がもう震え上がるくらいその放射

能でまき散らして、日本国民がどん底に落とされたような、叡智、叡智と崇めたてたものが、これはまたDDTどころか、ダイオキシンどころか、ヒ素どころかもっともっと恐ろしい結果を招いているわけですね。これを無明と言います。

【参加者】

もう、人減らしで。色んな。

命をかけて戦争を止めたお釈迦さま

【水源師】

そうそう。だから人減らし、人間が多いからこれで皆処理すればこの地球の資源がもっと少ない人間で豊かに暮らせると。じゃあ何の為に生まれて何の為にこれだけ増やしたかという政策もあるわけですね。

そういう風にナーマは心だから、無慈悲にやった場合には、動物ですらその怨念というのは凄いのですよ。そういう事を知っても知らなくても、その慈悲の心が無くしてこの尊い人間体の破壊、人間体によって仏が出てくるのだから宇宙的に至宝（Maniju）なのです。

私たちはもう、人間が溢れるばかりだから、いくら殺しても良いと。そんなものではない。だからお釈迦様は、一生懸命、一生懸命「戦争だけは辞めなさい」と。

コーサラ国の王子様が、王様の言い付けを聞かずにカピラ国を攻撃に来たわけ。それでお釈迦様が王子様の時でも、コーサラ国が攻めてくる時に、そこに走って行ってお父さんが戦って絶体絶命の時に、お父さんを救いに行くわけですね、その時ゴータマ王子が結局いない、「どこへ逃げたのか？」と。ところがゾウの大軍を引き連れて来て、相手の大軍を一挙に止めたのです。

その時にゴータマ王子様が戦争は止めて、「じゃあこの決着は、二人でしましょう」と。無駄に沢山の兵士の殺戮を止めたのです。最高の軍師は一兵士たりとも失わずに、敵に打ち勝つのです。それが真の大將軍なのです。

私の冠をデバダッタに撃たせると、「あなたの、その冠をあなたの一番偉い家来を選んで撃たせなさい」と。的を外せば死ぬでしょう？それでお釈迦様が立ってデバダッタに打たせたわけです。デバダッタは、もう小さい時からもうお釈迦様を恨みに恨んで、憎たらしくてしょうがないわけです。

これは絶好の最高に待ち望んでいた機会、殺したら自分が王権取れると思ったけれども、パーン！と最後、なぜかこの冠の的を撃って、その冠の帽子を飛ばしたわけです。今度コーサラの王子様が来て撃たせるとき、その家来が、やっぱり自信がないから殺すかも分からないから、辞めたわけです。

そうしたら、敵の大将だから首を落とされるのが当然なわけです。コーサラ国というのは、カピラヴァストゥの十倍もある大帝国なのだけれども、その時にゴータマ王子が、いやあなたを殺さないで許しますと。これからは和解して二度と戦争を起こさないように誓って下さいと。

そうしたらカピラ国の家臣たちが、「今までこういう事はない」と。「必ず殺さなければいけない」と。「殺さないと必ず私たちがやられるから」と。でもゴータマ・ブッダは殺さないで手を打って、そして帰したわけです。それでその後、仲良くなったりしたけれども、やっぱりカピラ国の悪い家臣が変な事をするわけですよ、その負けた王子様が遊びに来た時とか、それでまた恨みが出てくるわけその中に、無明がゆえに。

「観自在菩薩行深」無明、サンカーラを深く深く観よ

だからこういう風に無量永劫、私たちが生死を繰り返ししているものだから、この無明を取るというのは現実的に大変な事なのです。その無明をしっかりとその観（Vipasana）自在（Jana・定）菩薩（大徳）行（Sankara）深（法髄観で）サンカーラを観たと。

まあ観音様と誤解されているけれども、観音様のそういう智慧が渡って来て、五自在（定）を使って、だから自在とするわけ、観自在と、観るとヴィパッサナーの五自在を使ってサンカーラを（法髄観）で観る大徳というわけですね。

もうそれは菩薩のようなものだとかそういう風に書かれて、それを深く、深く観たと。私みたいに浅く観る人間もいるから、ピンからキリまであるけれどもね。私の方はキリの方だけれども（笑）。まあ、そういう事で、無明という事をしっかり観て行くわけです。

受想行識の事がここに書かれてあるわけですね。そして、さっき言った様に、名・色の作用によって、良い事をしなさいと、さっき言った様に良いことすればその心が、結局そのおばあちゃんは、天界に生まれたのですよ、凄い御殿の所という話がちゃんと載っています。

カイルス山で最高のおもてなしを受けた水源禅師

たった、お婆ちゃんが、欠けた瓦に水を載せてカシャパ尊者、迦葉尊者。中国では、カシャパと迦葉は発音が違うでしょう？中国で困ってしまったのですよ。カシャパ尊者の居所を中国で探そうと思ったわけです。カシャパ、迦葉と言う、おお迦葉かと。すぐに分かる漢字で書けば。

本当に困ってしまっていて中国語の漢字、発音でカシャパと言っても分からない

し、中国には迦葉と書いたら、分かったと。プーランだと、プーランというチベットの町があります。そこは広域の場所で、ネパールと中国の国境にあって、昔はカイルス山への登山口がそこから入って行きます。

だから今でもそこにはネパールの人が、パスポート無しで中国に入ってくるわけ。入ってはいけないのだけれども。もう昔からの習慣で行ったり来たり。私みたいな外国人がそれをやれば大変、刑務所に入るけれども。

まああっちの人は顔もあれだから入ったり出たり分からずに、それで中国国内のそういう国境の村ではネパールの人が、一生懸命必要品を作っていました。中国のチベットから上海とかに持って行くのでしょうね、チベットの人に売るとか。チベットの人もそこで卸して交易しているわけです。まあ昔ながらの、見てものどかな良い、本当の昔ながらの国境貿易を見てきましたけれども。そういう事がラオスの方でもあるし、カンボジアとベトナムとの間もあるし、もうパスポートないのですよ。

ただ行ったり来たり、行ったり来たりしてもうそこら辺、だから国とかそういう風な厳しいものは一つも無くて、ああお前ペルーの人か、こっちはエクアドル、パスポート無しで書類に書いてそれが国境ではパスワードとなるわけ、そんな厳しいものではないのだけれども。今度こういう経済混乱とかあれば厳しくして、窮屈でもう生きて行けないようなシステムにしてしまうわけですね。

そういう風に、本当に二千六百年前のそういう偉大な方々も、その国によって名前を変えてしまうから、本当に奇跡的にそういう場所とか、修行道場を見て来ましたがけれども。



ネパールの山々

【参加者】

カシャパ尊者はプーランの所で修業されたのですか。

【水源師】

カシャパ尊者はプーランが自分の本拠地なわけです。だからそこには洞穴が沢山ありました。その洞穴の今でもチベットのお坊さんが、そこで八十歳かな、私より目が良くて、暗い洞窟の中で御経を明るく楽しく歌うようにと読んでいるのだけれども、私の目には細かくて全く字として、見えないのです。

本当に、私に「ああよく来たよく来た」と言ってね、バターミルクに本当は塩を入れて飲むのだけれども、それに砂糖を入れてくれるわけ、そう最高の御馳走でもてなしてくれました。

【参加者】

ちゃんとわかったのでしょうか？ 甘いのが好きだから。

【水源師】

いやいや、そこチベットでは蜂蜜とか砂糖入れるのが最高の御馳走なわけ。だから私がカイラス山に行く時も、そのカイラス山にチンハイ、低いチベットというエリアがあってチンハイね、高い高山のチベットと、チンハイというのは lower Tibet というわけね、英語で。そこから来たお坊さんが、私を見て、「お友よ、よくここに来たなあ」という事で、その人はもう弟子を連れて歩いているわけです。

だからその人が来たらここのお寺の和尚さんは出ていくわけ、全部明け渡して自由に使わせるわけです。それが仏教のしきたりなのです。だから南伝でも他の偉いお坊さんがきたら自分が出て行って全部明け渡します。

【参加者】

日本と大違いですね。

【水源師】

そして黒豆を焼いて「やあ食べてくれ」とか、それで何とツァンパ tampa という粉みたいな、全部麦殻をも粉にして、それを蜂蜜でこう団子みたいにして食べさせてくれるわけ。もう、それは最高の持て成しでした。そのカイラス山では、何も無い所です。あるのは石と、岩だけです。

それで二回目に来た時には、次の小僧さんが、あなたは前に来たからお金は

いらないと言うわけです。何故か覚えていて、あなたには特別に、ミラレパの洞窟の所で瞑想させますから来て下さいと。

ミラレパというのはチベットでは最高の行を修めたお坊さんで、瞑想でね、空中を飛ぶというお坊さん。それでカイルス山のその洞窟でずーっと瞑想させてもらうとかね。まあ何故か知らないけれども、こういう、贈り物も。

【参加者】

ミラレパの洞窟はいかがでしたか？

【水源師】

凄かった、達磨大使様の洞窟も凄かった。

だからこう話をすれば、日本のお坊さんは本の世界だから、何を言っているか分からないと言うでしょうね。「何を言っているの？」という事になるわけですね。だから全然言葉の通じない、そういうお坊さん方々がもの凄く私を、大切にしてくれますし、お坊さん方も凄い修行をされていました。

そう言うチベットの奥山とか、スリランカの奥山の洞窟で。一生懸命食事作って、朝起きたらちゃんと出してくれて。まあそういう風に何かもう加護を受けているように、そういう人の知らない命を落とすような見知らぬ町にでも、行って来たのだけれども。まあそれは光明と言うか、何か生前の善行によってこうなったのだという事が、やっぱり過去を観ればちゃんと繋がっていました。

だから生きている時に、何を言われようと、どんなに苦しい事があっても、盗まない、一生懸命働いて、そして私はお釈迦様に深く帰依したおかげでそうになったわけですよ。

世界中の宗教で大切にされている牛さん、ゾウさんも然り

その前に、久遠の時空の昔にカクサンダーブッダに会えて、カクサンダーブッダ様の牛として仕えたという、そういう功德があったわけですね。そういう遠い彼方からでも応援してくれるわけです。

だから佛光山に行った時に、中国では有名なお坊さんが、次に生まれる時は牛に生まれなさいという行をするわけです。だからインドでは牛は殺さない。最も人間に仕える動物で、畑を耕し、それから人を背負って荷物を運んで、美味しいミルクをくれて、人間を育ててくれると。

なぜ私たちはこういう牛を殺さなければいけないのか？という事で牛は殺さない。私の前世は牛だったから、まあ自分の体を食べるみたいにああ美味しいです、有難いと言って牛肉を食べているけれど。

だから宗教界では最も尊敬されているゾロアスターと言う最も古い宗教では、やっぱり牛を大切にしたわけです。何故か、エジプトでもお墓を見たら牛の棺桶があってそこに聖なる牛を埋めているわけ、ちゃんと棺桶の中に。何かあるのでしょうね、牛という事。私たちはあんまり分からないけれども。



スリランカの牛たち

【参加者】

文珠様もそうなのですか？不思議。

【水源師】

角生えて不思議、文珠様は、ライオンに乗っているとてっきり思っていたけれども。

【参加者】

角があるのですね。

【水源師】

おお角があるね～。だから現地に行って初めて分かるわけ。白牛、だから悟りを開く時には、童子、善財童子が黒い牛に乗ってだんだん牛が白くなって、最後には悟りを開いて、まん丸い月が出て今度は人に尽くすお坊さんになるという絵が描かれている。

【参加者】

変わるのですね。

【水源師】

だから五十三次で次から次と、そういう例え。南伝の方では今度は象さんになるわけ、象さん。家に飾ってあるように。象さんも段々、段々こう進化して行って、人の為に尽くすと。ここの、湖の道場には無いです。トロントの方に有ります。

凄い修行をした聖者は奇跡をいっぱい起こす

まあそういう事で、六処の事。そして、そういう事によって、受想行識の触から受、触、触ることによってそれが認識、識がまず始まったけれども、また無明からそういうナーマルーパの色に発生して、色から今度 phasso (触)、vedanā (受) ここが入ってきます。

それでサンカーラの作用がここにポンポンポンと入ってくるから、それでアビダンマの受想行識の行をやれば、この意味がすぐ分かります。だからミャンマーとか南伝では、その受想行識の為にアビダンマの歌をこういう風に唄っていくわけです。歌で覚えれば、もう歌だから暗記しなくても歌として覚えるから。

Salāyatanan で朝から晩まで唄っていました。あっちでは、音楽かけて。だから根についているわけ。私たちが般若心経を読むみたいに。般若心経もまた素晴らしい御経で、これを簡潔にまとめてその中の使い方があるわけですね。

お釈迦様はこれを使って涅槃に上げてしまいますね、凄い事です。凄い御経。それを深く解説して観ていく時に、この受想行識をちゃんと観の。こういう事によって、どこに生まれるかと言う事が決定するわけです。

六処のその天界から六つの世界があるでしょう？人間界、阿修羅界、鬼畜界、動物界、地獄界と、それが決定してしまうわけ、無明だから。無明で老婆さんみたいに、カシャパ尊者に拒絶しないで言われた通りやったら、天女になって、それからカシャパ尊者を天界からいつも助けていたと言う話もあるのですよ。

前に話したかもしれないけれども、カシャパ尊者迦葉尊者が、貧しい夫婦が畑を耕している時にそこに行って何か恵んでくれと。そうしたらその主人が、昼飯を食べるのをそれ全部あげたのです。そうしたら奥さんが、あらあら私たちの食べるものが無いとそう言ったけれど、信仰心でダーナしたわけね、ピндаパータで食事をさしあげたのです。

その後この人が掘ったら全て金が出てくるという話をしたね。そういう風に凄い精神を修行した人は奇跡をいっぱい起こします。

【参加者】

逸話ではないのですね。

【水源師】

逸話ではないです。

【参加者】

本当の話。

【水源師】

本当の話なのです。

【参加者】

凄い事です。ね。

【水源師】

凄い事です。だから想像を絶するような話だから、そういう事は、今はあんまり言わない。そういう事を言えばお伽話か嘘じゃないかと、他の宗教から

もう避難轟々になるから。まあ一般的な分かる範囲内で、お釈迦様の話を話しているけれども、それでも凄い事ですよ。

まずまず、まあ、そういうお話を聞いたり、現地に行ってみれば増々その凄さがもう桁外れでした。

【参加者】

その洞窟然りですね、行ってみれば。

無明ゆえに、愛によって「取」が生じる

【水源師】

そうそう。凄い事です、本当に。それだけの凄い光明を与えてくれたわけですね。それがなければ私たちは今、原爆がある前に皆殺しになって何もなくなっただかもわからない。

火薬発明すれば、それで増々爆弾作って殺すし、エンジン作れば今度飛行機にしてどんどん爆弾撃つし、挙句の果て核弾頭、原発で核爆発を日本でぼんぼんやってしまうし。無明。

だから知識がいくらあっても無明だから、どんなに知識とかロジックとか科学とか言っても、無明なものだから、結局はい、家買えますよって、ローン、一生ローン払ってもう目に見えない鎖で繋がれて、ドゥッカ (dukkha) 苦。それで真面目に払って何とか、と思ったらあらもうこんなに年取った、体も動かない、世話してくれる人がいないと。子供も皆どこかへ行っちゃったと。これが集結して無明になるわけですね。

その無明がどこから来るかといえ、さっき言った様にそういう風にサンカーラがこうして発生してきて、その時に愛の因縁によってそういう風にし、Upādānm (取)が発生すると、愛によって。

【参加者】

「取」とは？

【水源師】

upādān というのは、生命体が宿るとか、そういう風に言っているけれども、もっと深いのですよ。結局欲心というものが入ってくるわけ。その欲心が何故入ってくるかといえ、無明がしっかり繋がっているから愛に。

その説明がちょっとここは論理的になって、繋がって、サンカーラだから説明しているけれども、深く観れば無明が原因で、この愛すらも悪い方向に行ってしまうわけです。

Love と今皆言って、love love love とビートルズが歌って、皆平和になりましょうと言っているけれども、無明があるものだからそうならないわけですよ。ビートルズが歌って皆、ヒッピーが出て皆、踊ってまあ平和花、フラワーチルドレン (Flower Children) が出たけれど、挙句の果てこのフラワーチルドレンが政権を取って、もう滅茶苦茶に世界を押して、皆殺しにすると言うのだから。

そうそうそう、ウッド何とか言ったね、ウッドストックは音楽会か何か、三日三晩全米の若者がそこに集まって子供も生まれ何とかと、マリファナパーティーか何かやって、裸になって踊ったりとかしたと聞いています。その人たちが今政権取っているわけなのです。そう言った人たちが。無明、だから一番最初に無明と。という風に、こういう風に現代語で今説明しているけれども。

これがもう学識派で。こういう風に説明したら、ハーッと色即是空、空即是色、ハハハッと、こうわけの分からない言葉になっている。何だか良いものだろうなあ。だから あるおばあちゃんが、オー、あの阿耨多羅三藐三菩提、棚から牡丹餅、これは有難いとなってしまうわけです。

生命体は無明から発生し、生、老、病、死、苦となる

まあ、こういう事によって生命体が upādāna、upādāna というのは取という風になっているけれども、深い意味では生命体が発生してしまうという風な形が出来上がりますと。

それで生まれ出てくると。生まれ出てきても、結局無明から発生しているから、生きて別れ、死んで別れ、それから働いて病気して、生、老、病、死の苦となるわけ。生、老、病、死の苦と。

生まれるのがなぜそんなに悪いのって。お母さんがお腹痛めて苦労して苦で生まれてくるじゃない赤ちゃん、そう簡単ではないのですよ。それで食料を取って一生懸命子を育てる為に、九か月腹に入れて、苦でやっと生まれて、上手く生まれてきた時に、生まれる時に大変な苦しみ、それでそれをまた育て上げて行くのに一生懸命働かなければいけないという風な、それで生、老、病、死、の苦という事を、又生きていく事は貧しい中で大変な苦である事も、お釈迦様は知らなかったわけです。

四門出遊

そういう夏の宮殿、冬の宮殿でいつも綺麗なところで育てられて、デバダッタのお母さんが、あの町を見学しなさいと。そういう風なニューシティーと言う所は、そういう風な見捨てられた人ばかり、老人とか、病人が多くて、もう生きるのがとても苦しい地獄みたいな所もあるわけ、そのカピラの国の街の郊外に。

それでデバダッタのお母さんは、自分のデバダッタを、マンガラ、マンガラという吉祥という意味だけど。それをゴータマ王子に見せて、それから聖者の家も訪ねさせて。何故かと言えば、ゴータマ菩薩様がお父さんに、「私はこの城から出て外を見たい」と。「見せてくれなければ私はもうここで死んでしまう」みたいな事を言ったから、仕方なく家来を連れて見せたわけ。「私は将来王様になるからこの国を見たい」と。それで国中を見て回ったわけ。色んなそういう民が苦しんでいるのを見て来たわけ。最後にデバダッタのお母さんのマンガラが、そういう病人、ライ病とか、老人とかそういう人を集めている所を見て来たわけ。今死んで行く人間はそこにいるしもう、見た事の無い惨状です。まさに 生老病死の苦（ドッカ）です。（Ethiopia の旅で本当に今でもこの苦の世界を観てきました。2600年後の現代でも同じでした。私は苦を観て、体でショックを受けました。）

【参加者】

デバダッタのお母さんが見せて？

【水源師】

そうなのですよ。ところが大乘の経典では西を歩けばこう、東の門に、そうではないのよ。そういう所を見せたわけです。話がよく合うわけです。

それでショックを受けてこれはどうした事かと。それでまたお父さんは絶対に修行僧にしたくなかったわけです。もう一人子でしかいないし、やっと生まれた子供でこの子は将来皇帝になる、全部世界を収める皇帝になる資格を持っていると。または、逆に修行僧になるという予言を受けたのです。アジッタという予言する人があなたの生まれてくる子供は、「将来、必ずや修行僧になるでしょう」と予言したわけです。

絶対にさせないつもりで、因果を変えようと思って、そういう風な城を作たり、一生懸命修行僧にさせないようにお膳立てをするのです。それでゴータマ・ブッダは、デバダッタが矢で鳥をうち止めればそれを、匿うとか、殺す事が嫌いだったわけです。

ゴータマ王子は人を虐めるとかそういう事も大嫌いだったから、「これではお父さんの国王の思いは、他の国に攻められればいっぺんにもう崩壊してしまうだろう」と。ところが戦略の時に、やっぱりゴータマ・ブッダはここ、ここ、こう攻めれば大軍がここで壊滅するからと言う、ちゃんと国王の父へ教えるわけです。稀にみる軍師なのです。

【参加者】

智慧がまわるわけですね。



ミャンマーの僧院跡バガン

私達は無明の愛、お釈迦様は本当の愛

【水源師】

それで本当に殺す事が大嫌いで弱い、はずなのゴータマ王子が、そのデバダッタがカピラ国では最高の英雄で力があって何でも倒す、それを国王となる妃を娶る武術競技での打ち破ってしまうわけです。

という風な壮絶な戦いがある、デバダッタはどうしても自分がクラウンプリンスになりたいから、ゴータマ王子とある人のその試合の前にね、牛車がもう動かないから手伝ってやって、車輪に手を挟んで血を出したのです。その時に治療を良くするのではなく、わざと手に血が出るような毒薬を使って、治らないよう毒を塗って増々悪くなるようなとか、ありとあらゆる策謀でその試合に勝つという事をやっていたわけです。

試合前に握手をする時に手を強く握れば、血が出るから痛いわけです。そこを狙って彼がやってくるのだけれども、最後にはそれに勝ってヤショダラと結婚するわけです。と言うのはヤショダラのお父さんはデバダッタの方が好きなわけです。デバダッタは強いし国を守れるし、結婚させたかったけれども、ゴータマ王子は、ひ弱い人間を守るので嫌だけれども、ヤショダラはゴータマ王子がとても好きで結婚したいわけです。最後にヤショダラの為に勝ってあげて結婚したのです。でなければヤショダラは自殺したと思います。

人を救うために勝ったわけです。本当は勝っても勝たなくても関係なかったのだけれども。まあそういう壮絶な事があったのです。これが本当の愛なのです。

無明の愛ではないわけです。ところが私たちはほとんど無明の愛なわけです。その愛愛でも全然違うわけです。最後には正道してこの般若心経という事で涅槃に上げてしまうとか、沢山の人を救っているわけです。仏は本当に偉大そのものです。

だから光明が生まれれば凄い結果になってしまうのです。まあ滅多にこういう事は出ないわけです。光明で生まれてくるというのは、凄い菩薩行、菩薩行の後、その前の仏陀そして、ディーパンカラー大燈明仏と数えて二十八番目の仏陀に成る前に、スマナという青年として、その時に大燈明ディーパンカラーが通る時に水たまりに踏ませてはいけないという事で、自分の髪をスーっと水たまりの上に広げて通させたのです。お前は必ずや将来仏になるという预言を受けて。二十四代目だからね。考えられない久遠の彼方。カクサンダーブッダにしても四代前だけれども、現劫第一仏、その千仏の中の一つという南伝では認めない。南伝では28しかないと。まあそれでも凄い時空があるわけですよ。

【参加者】

デバダッタのお母さんが最後に息子にいつ出るか分からない聖者ですって
説いたわけですね？

光明でやれば仏になる、無明なデバダッタも最後はお釈迦様に帰依

必死に説き伏せるのだけれども、それでも殺そうと、無明で。最後に殺す事に失敗して自分が転げ落ちて重傷を負って、お釈迦様がデバダッタを手当てしてその前にこう言ったわけ。

「ブッダン、サラナン、ガッチャーミ (Buddham saraṇaṃ gacchāmi)」と。
「私はあなたに深く帰依しますと。あなたの下で生きて行きます」と。それで
「ダンマン、サラナン、ガッチャーミ (Dhammam saraṇaṃ gacchāmi)」と。
もう死ぬ直前にね、「私はこれから永遠にあなたの教えの中で生きて行きます」と。
加護されて。それから「サンガン サラナン ガッチャーミ (Saṅ gham saraṇaṃ gacchāmi)」と。そういう風な「仏の集団の中でこれから生きて行きます」という風に。

やっとの事で、今度初めて涅槃への、久遠の時空の道が始まったわけです。
それまでも讐敵でずっと久遠の彼方から狩人になって鹿のゴータマ菩薩を殺そうとしたり、延々と続いて行くその話がこれから始まる分けです。

それで、最後にはそういう風なデバダッタまで救ってしまって、その時に改心したから、その時にそこから本当に今度は涅槃の道が始まって行くわけです。
という風な話が、それは仕方ないですよ。インドの二千六百年、日本はまだ文字があったかどうかとも分からない所に伝わってくるのだから。

中国だって春秋戦国の時代を通してやっどここまで来るくらいだからね。だから当然色んな話が混乱して伝わるのは当然の事だけれども。インドのそういう仏典とか色んな事が、今現代によって話を聞いてみれば良く合うわけですね。

だから光明と、無明の違いがこれくらいあるわけです。光明でやれば仏になるし、無明でやればデバダッタみたいな事が起こると、いつでも。

愛も何も無い非道な、それで苦という事が発生するわけです。だからその渴愛、渴愛と言うのは無明から来るわけです、渴愛とか。無明が原因なわけですよ。お釈迦様は生を受けても、そういう風に無明ではないわけ。光明だから逆にこの二千六百年の間、沢山の生命体を救っているわけです。

だから、今でも仏国に行けば、キリスト教の社会とか、そういう人たちとはちょっと違う。非常に素直にその国でゆったりと、悪人もいるのでしょけれども、私としては何かゆったりと、何か棘の無い蓮の花の国みたいに、バラは綺麗だけれども、棘があるからちょっと気を着けなければ怪我をしますね。そ

ういう社会ではないのですよね。

【参加者】

カンボジアとかそういう所も？

メッカではイスラム教徒がお釈迦様の足跡の周りを周っている

そうそう全ての心が実はそうなのですよ。ただそこに悪人が来て無法の風が吹きまくって、そういう風に民衆が苦しむけれども、まあアフガニスタンの痛ましい事。その民その人たちは知らないのだけれども、そうなってしまった、そのそういう風な偉大な仏の教えを、今でも仏像が出たら壊すみたいです。

そして「あなた方は知っているのか？」と。「あなたたちはマホメットを尊敬しているでしょう？」と、「メッカに行くでしょう？」と、「あのメッカにはね、お釈迦様の左足の足跡があるのですよと。その周りをあなた達は、くるくる回っているでしょう？」と、「じゃあそれを証明できる？」、「はい、その歌はスリランカで歌い継がれています」と。もう黙っていた。

だからもう無明というのはこれくらい恐ろしい事。だからさっき言ったカシヤパ尊者に、本当に超貧乏のおばあさんが、何も食べるものもなく、水を少し恵んだお陰で天界に生まれてしまうという、この宇宙の最高の教えなのです。

お釈迦様が、頭剃ってこういう団体を作ったのかと思ったら、ちゃんとあったのですね、その当時。こういう風に乞食して回って行くという、お釈迦様もそのスタイルで教団を御造りに成られた。あの比丘という風な、スワミとか、沙門とかそういうのがあったから、それでお釈迦様が作り上げたわけではなく、そういうインドのヒンズーの一修行方法としてそういうのが太古の神代からあったわけです。(ヒンズーとは特殊な集団ではなく、インド地方の宗教を示すと、インドのヒンズー学者が言ってます。)

【参加者】

良いものと言うか取り入れて行ったわけですね。

お釈迦様の容姿は？

【水源師】

その中で修行してお釈迦様は、サフランの衣を来て、だからまあインドの比丘はあの色を使っている。この色ではなく、けれども私がお釈迦様の瞑想した時にはこの衣で出てきました、この衣で、この色で。さっそうと歩く姿は、もうこれぞこの世の神としか思われないくらいの、お姿でしたよ。

【参加者】

アフガニスタンの首のない仏像もそういう色、赤。

【水源師】

そうですね、もう少し赤みがかっていて、それでアフガニスタンから写真を撮って来たけれども、いやー凄い仏像、顔の形から何から。まあまあまあ、まだ開いていないけれども、何とか帰る前に写真会で見せなければいけないね。でなければ怒られますね、ここまで来たのに。

【参加者】

誰もみていない。お釈迦様と言うのは彫が深いのですよね？

【水源師】

そうそう。やっぱりアフガニスタンに行けば、西洋人の顔、色も白いし、四、五人そこに並んだおじいちゃん見たら、イタリア人の顔、スペイン人の顔、それからイギリス人の顔、本当にほんと。それでブルーアイ、金髪、全部あった。

私たちが知っているタリバンとは全く違います。カブールに行けば完全に西洋人。という風に太古のギリシャから交易があったようです。しょっちゅうヨーロッパ人が行ったり来たりしたみたいです。

【参加者】

結婚したりして血が混じって。

【水源師】

いやいやアレキサンダー大王がそこに来ているから。それでアレキサンダー大王が、お釈迦様を尊敬してこう拝んでいるのです。まあそこで死んだけれども。多分あそこで死んだのでしょう、カブールで。

というのは、クシャン帝国と言って六千年の最高の金持ちの帝国だった、それでそこに攻めに行って、それでヨーロッパから沢山人々が来て、だからカブールの人達は白人系です。カブールの人達は、また地方の人とは違うと言っていました。

【参加者】

お釈迦様の髪の色は何色ですか。

【水源師】

歩いていた姿は黒みたいだったよ。ブルーではないよ。ただし深い瞑想してこの髪の色を観たらブルーが出てくる。黒がブルーになってしまう。多分それでそういう風になったか、お釈迦様は瞑想を発生したらその色が強烈に出てきて青に観えるのか、それは分からない、目の色は、青ブルー。

【参加者】

ドラマではインド人の人。

【水源師】

まあよくお釈迦様の事演技して、立派に演技してくれたね。素晴らしい役者だった。

【参加者】

デバダッタも凄い。

【水源師】

デバダッタの役者もよくあれだけ憎たらしく演技してくれるものだと、見上げるくらい立派な。さすがにデバダッタのお母さんのマンガラ役は、途中で他の人と変わった。あんまり悪い演技するものだから病気になったのかも分からない。

【参加者】

変わったのですか？

【水源師】

若い人に変わった。あんまり上手に、まあまあ憎たらしい、まあこんなやっぱそれをやったものだから、もうやらないって辞めたかもしれない。虐められたかも知れない。

【参加者】

凄く上手かった。

【水源師】

上手かった。本当は美人なのですよ、それがまあこんな女がいるものかと言う風な憎たらしい。上手、上手。それやったものだから、あんまり上手だからもう人から虐められたか、病気になったか、あの役者誰かと変わった、上手かった本当に上手かった。

【参加者】

台湾のこれを頂いたところに白いお釈迦様の仏像があったじゃないですか、あれも近い。

【水源師】

そうだね、ああいう。すっきりした顔、あれに近いです。

【参加者】

達磨様はこんな感じで。

【水源師】

今度日本に持って行って印刷して、合宿で私がハンコを押して一人一人に贈呈します。

生死を超える瞑想法

だから来年の合宿の時は、生死を超える瞑想法を教えたいけれども、やっぱり修行されているあなた方みたいな行者には伝えても問題ないけれども、初めて来た人達に伝えても、どうかなと思うのだけれども、様子を見なければいけないし、それもしっかり教えるから最低五日はかかるしね。

確かめながら教えなければいけないし。まあそれを発表してもいいよ。前に来た人がそれで2, 3回来て、それを求めて来るかも分からないし、チャンスは与えてもいいけれども。誰も彼もはね、ちょっと難しい話、今はもの凄く物真似するでしょすぐに。

それがまた、沢山の色を付けて、まあ形なんかやっても違うものになってその事であって、その心を求めて本当に求める方には本当にちゃんと伝えたいのだけれども、またこれを妨害する団体とか人間がいっぱいいるみたい。あれはおかしいとか分からないのに、まあそれは構わないけれども、私としては。でもせめて私は本当の法を教えようとしている人間だから、ただ心配しているのは、仏罰という事がある、仏罰という事。

仏罰の恐ろしさを分かっていない

日本ではその恐ろしさ分かっていないみたいね。ただそれを心配している。だから仏国で私を取り扱う、その礼儀正しは日本とは雲泥の差ですよ。もうスリランカでもミャンマーでもどこでも、もう全然違います。中国でも韓国でも、比丘のいる世界。日本だけは何か、おかしくなっているけれどもね。

ただ非常に心配しているのは、そういう風に勝手に仏の法を曲げて、何だかんだと言って、分かったつもりで、無明ね、無明。仏を無明に使えばこれは。あれは親を殺すよりも重い罰と言われているからと言われているからどうなるのだろうね。

その事を言っただけだけれども、私は脅かすつもりはないけれども、因果関係で本当に因果関係と言うのは、もう大変な事なのです。そう簡単に変えられないから。それで無明でこんな事をしてしまったら大変ですよ。

特に分からない若者たちに、そういう風な事を教え伝えて、若者も知らないでそれについて行ったら、同じ仏罰を受けてしまう。それを実際に見ました、本当に見ました。大変な恐ろしい事になるから。

本当に静かにアナンダ様みたいに静かに口を押えて、修行される方が一番良いと思いますよ。だって修行もなく同じ人間だと、仏は人間だけれども、お釈迦様は最高点なのに、私は修行がとても未熟な方なので、恐れ多くてそう思えないです。そのアナンダ様と対比するデバダッタ。

今、世界中に魔が流行って同じ人間でも、何百人とか何千人とか殺す麻薬の王様もいっぱいいるし。人身売買とか同じ人間がしますよ。私たちは同じ人間だから堂々と同じ平等の権利、でもね、人を何千人も殺す、何百万人も殺すのと、お釈迦様も同じ人間だと、人間もピンからキリまでありますよと。よく考えて下さいという事。

同じ人権があると、人を千人殺しても同じ人権で、人を千人救うお医者さんと、人を百人、千人殺す人が同じ人間だと言えないと思うよ。もうそこまで狂ってしまっている、自分の自我でね、これこそ無明。特に修行もなしに、もう自分好き放題、自分の勝手に言いまくるよりは、そういう道場に行って真剣に修行してみて下さいと。世界中にいっぱいあるのだから。

そして、その時に初めて自分なりに、意見を出せば良いのではないですか？何も知らないのに、もう勝手な事を書き、人を騙して、出鱈目な事をどんどん書き、さもそれが本当みたいな事、だから日本の人はほとんど騙されています。

国民を騙す権力者や政治家達、隠し通す事は出来ない

一番良い例が、放射能が一杯あるのに、扁桃腺や甲状腺がやられても発表がないと。政府は、「あのう皆さん静かにして下さい、大丈夫ですよ、じっと家に居て下さい」と。家にいても放射能ボンボンやられている。それで今度はそれを認められないから全部隠すし。これこそ本当に仏教を勉強した人間だったら出来ない。こんな怖い事。こんな怖い事絶対出来ない。どれだけの無明の世界に入っていくか、無量永劫。

ただ善良な人間でも分からなきゆえに同調し、挙句の果てにアフガニスタンの滅法のさんざんたる社会に成りますね。同じ国民を今度は毒を飲ませて殺して黙って隠す。この人たちはどこへ行くかわからないですよ、無量永劫、これからの社会、大宇宙的にも、本当にそうなのですよ。

【参加者】

何でも隠す。

【水源師】

隠せば永遠にOKと。「本当の事は自然と出て来ますと。いくら隠しても出て来ます」とお釈迦様は言いました。

【参加者】

代表的なのはAさんではないですか、隠し、隠し。

【水源師】

まあ彼が代表になっているけれども。代表になってそのグループがね。それで頼る所はお寺なのですよ。だからお寺の和尚さんが、何だかんだと都合の良ように、OK, OKでどうなることやら。Aさんが座禅するそうです。

【参加者】

今でも？

【水源師】

知らないけれど、そう言っています。頼るところはもうお寺で、心が騒ぐから寺に行くしかない。

【参加者】

顔もちよっと変わって来た。

【水源師】

もう変わってきた A さんを槍玉に上げるわけではないのだけれども、そういう政治家たちは、本当に国民の事を考えて、命を捨てても守らなければいけないのに、この民主社会で。

日本のお寺は葬式仏教、体を張って修行をして心の事を説かなければ、

だから私はアフガニスタンに行って先生方に、「あなたたちは恥を知りなさい」と、「あなたたちはアフガニスタンの国民をこれだけ殺して、それで平然とおれるのか」と。「これは神の教えなのか、それともあなたたちの教えなのか」と。黙っていた。「あ、時間が来たからお祈りだから行かなければいけないと」と行ってしまった。

だから、日本のお坊さんも責任あるよ。命を掛けて集団を大きくしようとしてはそんなものはいらない、日本の国民を守る為に本当に一生懸命、その政治運動をしようという意味ではないけれど、修行して心の事を説きまくらなければ、ただの文学小説で説く仮想仏教に成ります。

世界のお寺を訪ねて、チベット仏教だろうがミャンマーであろうがどこでも偉い先生がいたらそこで本当に一生懸命体を張って修行して、そしてその体験によって日本のそういう所に行けない人に、教えなければいけないでしょう？

ところがいつ死人が出るかも分からないから、「俺、行けない」と。そういうのはね、組合作って宗教団体であなたがいないければ他、その代わり三か月修行して下さいと、いくらでもできるのを、言い訳で修行しない。

それで、お坊さん方は他のお坊さんが来たら寺を全部空け渡すわけよ。帰って来たら、また入って来てちゃんとやると。それが正式なわけですよ、自分の物と思っではいけないわけ本当は。

それで修行する時は全部お寺を他のお坊さんに与えて、自分は全部捨てて修行道場に行くわけです。

【参加者】

今の日本お寺は全く違いますね。葬式仏教で

【水源師】

だからもう名前だけ借りてそんな事をして、いくら分からないにしても、薄々分かるはずですよ。そういう交流があるか、まあ日本語しかできないというのは

も言い訳にならない。じゃあ英語でも何でも私みたいに必死になって勉強して、一般の日本の人がそういう道場で勉強しているのだから。

全て言い訳で「あれ出来ない、これ出来ない」と。団体の中で虐められるし、そうでなければ生きて行けないシステムにしているから。

一般の方が仏国・日本を守っている

だから、体制を変えて本当の仏国にしなければ、日本だけ原爆落とされて、その挙句の果てに3. 11で日本に放射能をまき散らされて。それで太平洋戦争を起こさなくても良いのに、そこにいて自滅してしまう。

それでも気が付かない。ただ日本の純情な一般の方は仏式で生きています。

仏式というのは分かりますか？仏の法式で生きているのです。だから一般の人が日本を守っているわけ。それをどうして分かったと言え、韓国の二千年の名刹は純日本式の食事でした。

ああ、お寺からの食べ物をそのまま日本では今でも守って、一般の方がこの仏国を守っているのだという事が明快に分かりました。だからその恩恵でこれだけやられても、何とかかんとか世界でも羨まれるような事で、そういう偉いお坊さん方が沢山いたわけです。明治以前は、妻とかそういうのは一切無し、一代限りで。次から次へと代を譲ったという事を聞いています。それで修行も一生懸命したと。

その文明開化の成れの果てが、今の日本。それも一般の匠ね、一般の名も知れない匠の方々に助けられているのです。匠というのはこうだと、こうだと、それも先代の仏教の禅とかそういう棟梁の目線とかね。そういう修行したものは、生かしているけれども。

そういう色の世界よりも、ナーマ、名・色の名ね、お坊さんはしっかり修行して、もう一回心を入れ替えなければ、今の日本では老人をデバッダタ法式で財産も無くなるような苦しい生き方をさせています。

私はカナダで一介の外国から来た労働者でも、これだけの恩恵を受けています。

若いお坊さんに海外の仏国を見て回らせる韓国の仏教界、日本では？

せめて宗教だけでも自由に、偉いお坊さん呼んだり、修行させたりとか、講義させるとか、日本のお坊さんも一生懸命修行し他方が、よほど幸せだと思います。

【参加者】

ミャンマーは3か月とか普通なのですか？修行と言うか一般の人も3か月休んで？

【水源師】

いや特別行くけれども。皆、比丘になるのを夢見て一回は比丘になりたい、修行したいと。

【参加者】

韓国でも「ミャンマーへ行った」と。

【水源師】

韓国のお坊さんは必ず海外旅行をして見てきなさいと。特に仏国を行って歩き回します。日本の若いお坊さん方一生懸命努力してやろうとしているのだけれども、なかなかね。多勢に無勢で、色んな組織があって今までの体制、それは、良いのだけれども、仏教と言うのは本当の宇宙の最高の教えだか一般常識では、仏教の修行は出来ないと思います。

自分のもの、「取」ね。自分の欲で固めてこれだと、これは恐ろしい事だという事すら分かっていない。

【参加者】

仏教を分かっていないと言う事ですね。

【水源師】

そう全く分かっていない。今日はこれでお開き、まあここで、載せられない事いっぱい言っているからね。

【参加者】

こういう風に自由に出来る事が良いですね。日本の仏教界に入ってしまうと出来なくなりますね？



韓国の奉印寺

お釈迦様の本当の手法が伝わらない現実

【水源師】

出来ない。全く形に教えられた、正しければ良いですよ。今言ったみたいに。あれ違うのではないの？と言う事になってしまう。あれ、これどういう事？という疑問が湧いてくるでしょう？でもまあ良いやと。それで死んだ後どこへ行きますか。

【参加者】

そこを言っているわけですね。

【水源師】

良い所へ行くと信じ切っているけれども、変な所に行ったらどうするの。

【参加者】

その辺はどういう風に説明しているのでしょうか？

【水源師】

だから瞑想させないわけです。死の瞑想、自分が死んでどこへ行くかという瞑想もさせない。その来世を観たら、えっ！阿弥陀の国、こんな所？びっくりしてしまいます。

【参加者】

それも出来ないと思う。それも分からないと思います。

【水源師】

やらせる方法が、人間だからちゃんと出来るのだけれども、時間かけて観えるのだけれども。

【参加者】

その教える当のお坊様が分からないと思います。

【水源師】

勿論、でも修行をしてそうしなければ。ミャンマーにはそういうお坊さんが250人しっかりいます。だからもうそれが確証してしまっています。

【参加者】

だから行くのですね。

【水源師】

そうそう。これだけ攻撃を受けても、という手法がお釈迦様の手法が今でも残っているという奇跡ですね。それでまたね言葉が私は日本語で言えるから良いけれども、この日本語でも訳せない言葉が一杯あるので、私もたどたどしく訳して行くしかないし、特にパリー語から英語になってそれを訳して言うくらいであって、それでまあちょっとパリー語も勉強したり、またサンスクリット語、中国語を日本語に訳して、日本に来た知度（般若波羅蜜、Purajina Paramitta、最高の完全な智慧、六度の一つ）論、という漢文を見たけれども、ちんぷんかんぷん、お手上げでした。

ところが英文で書いた知度論の龍樹菩薩様はもう明快で非常に分かりやすく書いてありました。{(六度、六波：六波羅蜜『布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧』) 日本では定と智慧の関係の説明なし！ただ法髓観、余ってのみ、確定します。}

【参加者】

それだけ違うのですね。

【水源師】

そう、だからフランスの最高の哲学者の息子が、龍樹菩薩の知度論を英文で読んでいるから、明快なわけ。それで四百名の会場で私は討議したわけですが、彼が回答出来ない。

というのは文学仏教だから。修行仏教でそこを言いなさいと言ったら、お手上げ。それでそのリンポチェに顔を見て、リンポチェも回答出来ない、それでびっくりしてしまって。そのポイントは、ダライラマ法王が絶対勉強して下さいという事をリンポチェが言えなかったから、えーっと、ただし私は恥をかかせたくないから、韓国語で訳すのは辞めて下さいと。英語だけで討論すると。でも英語が分かる人間がいるから、そうかあと言う。私はその非難するわけではないけれども、本当の法話での討議やっていたわけです。後で収めて。それで黙っていた。

韓国のお坊さんでも、そこは言えない、何言っているか。というのは法髓観だけをやる人間は分かるけれども。ただ心随観の慧能大使の涅槃に行く空の世界だけでは、そこが飛び越えて観えないのです。

素晴らしいお経「仏説・般若心経」

それは言っている私たちの禅は飛行機みたいに飛び越えてしまうと。だから私は飛行機で行くのが大嫌いなのです。バスで陸路を行けば全部見えるからです。ところが飛行機で行けば点と点だから、ほとんど見えない、その国の内情が、その違い。大きな違い。

だから飛び越えて速いのは良いのだけれど、その間が解決出来ないわけです。そうしたら人に教えられないでしょ。自分は良いけれども。でも、それでもね、その昔中国では、もうその方法しかなかったと思います。このアビダンマから何からやれば気が遠くなる話で先生もいないし。

特に北伝から来たから、カブールの方から。一番正確だったのは、般若心経です。これがまた使い方があるけれども、未だに発表してないわけです。ただそれを守って一般の方が唱えているだけでも素晴らしい事で、それだけ素晴らしい御経です。

だから私が般若心経をあまり言わなかったのは、いやどうかな〜と思ったけれども、Hさんがこれから般若心経も唱えるようにします、もう時期がきたのだな〜とOK。

【参加者】

仏光山で大きく般若心経を掲げてありますね。

【水源師】

ああそうですか。

【参加者】

先生はまだ群馬に行かれてないですが、書いてあります、大きく、お釈迦様の後ろ側、金の。

法随観を修めた者だけが死の引導を渡す事が出来る

【水源師】

そこには秘密があるわけ、やり方があるわけです。それで最後の死ぬときの引導を渡すのに、その使い方があります。だから一生懸命それを唱えて、死ぬ時にそれを使って良い所に行かすか、涅槃に行かすかというそのお坊さんの力量によるけれども。カソリックでも、死の直前にお坊さんより引導を受けなければ、良い所へいけないのです。まあ交通事故で死ねば仕方ないけれども。死

と言うのが分かれば必ずお坊さんと呼ぶ秘密の儀式があるわけです。それに良く似ている。

だから、また真似る人間がいるから私はもう言いません。

【参加者】

言わないと言っても、来年やれば広まりますよ、法話集で何年後かに、来年か再来年かにその次の法話集が出るから。

【水源師】

法話集出てもそれを使う力量がなければ上手く行かない。どうせ上手く行かない、真似事になるだけ。逆に変になるかもわからないし。これは法髓観をしっかり観た人間だけが、使える手法だから。

【参加者】

それをもう法話で言った方が良いですね？



仏牙齒のスリーパーダ、プルアノーウル、スリランカ

水源禪師法話集 100

(2018 年 7 月 22 日 カナダ合宿三日目)

2019 年 3 月 2 日発行

編集兼発行 一乗禅の会